

事例編

子どもは、教えれば変わる

〜 礼儀正しさのDNAはまだ残っている〜

認定NPO法人マナーキッズプロジェクト理事長 田中 日出男

スポーツと日本の伝統的な礼法の
コラボレーション

子ども・若者の状況がおかしい。多くの人がそう感じるようになって、ずいぶん時間が経ちます。挨拶や礼儀など人間としての基本的なマナーやルールに欠ける。私的空間と公的空間のけじめ感覚を持ち合わせない。傷つくのが怖いから他人と深く交わろうとしない。学びを含めて何事にも意欲が湧かない。その上、体力や運動能力の面でもひ弱になった。そんな子どもが増えています。つあることをさまざまなデータは示しています。

NPO法人マナーキッズプロジェクトは、以上のような子ども・若者状況の是正に向けて、その一助になることを設立の趣旨に据えています。

具体的には、スポーツ・文化など子どもたちの各種活動を通じて日本の伝統的な礼法を体験します。プログラムは①子どもの体力・運動能力の低下に歯止めをかける（体育）、②挨拶・礼儀作法に基本的マナーとスポーツマンシップを習得させる（徳育）、③運動で知性を育む（知育）を考慮して組まれており、既に実施した全国各地の幼稚園・小学校等から、「挨拶をする子どもが増えた」「子どもをプラス方向に変える

力を持っている」といった趣旨の報告が寄せられており、高い評価を得ています。

既に5万6000人を超える幼稚園児、小学生がマナーキッズ教室を受講しましたが、子どもには教えれば変わることができると、礼儀正しさのDNAがまだ残っていると確信しています。

成果をあげている理由は、スポーツと日本の伝統的な礼法（小笠原流礼法鈴木万亀子総師範協力）とのコラボレーションにあると考えています。

今の日本の教育現場や家庭においては、目上、目下がなく、お友達のような関係になっていきます。そういう関係では、「躰」はできないと思います。

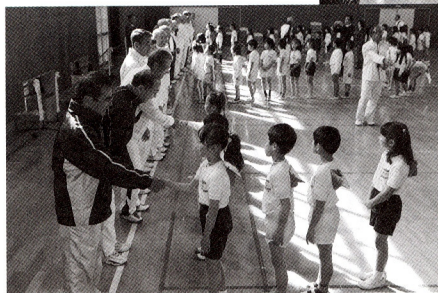
マナーキッズ教室では、目下の生徒が目上の指導者に姿勢を正してきちんと挨拶することをお教えています。やはり、伝統の重みが生徒たちの心に響くのではないかと感じます。また、子どもは、スポーツを楽しむながら学ぶことで、自然に正しい挨拶ができるようになると考えています。

マナーキッズ教室では、感想文をその日のうちに提出してもらいます。スポーツで疲れた後も、本を読む、勉強する習慣を小さい時から身につけてもらうためです。テ

「マナー」は小泉信三先生（元慶応義塾大学塾長）の「スポーツ三つの宝」他で、第1の宝は、練習または錬磨の体験。不可能を可能にするものは練習だという体験。第2の宝は、フェアプレーの精神。第3の宝は、友は人生の宝、という内容です。子どもは心に響くところがあるようで、しっかりと書いてきます。



▼「全員挨拶」教室の最後に、指導者全員を見てお礼の握手



▲「礼法指導」小笠原礼法鈴木総師範により、正しいお辞儀を練習

(写真提供：フォート・キシモト)

マナーキッズ大使の海外派遣

このプロジェクトでは、文部科学大臣杯マナーキッズテニス全国小学生団体戦を6年間にわたって開催し、テニスの成績、マナー・ルールの遵守度、感想文の内容、体力・運動能力テストの結果を総合評価して、1大会数名の小学生を「マナーキッズ大使」として海外に派遣し、現地で国際交流活動を行っております。

試合に勝つだけでは、マナーキッズ大使には選ばれません。マナー、感想文、運動能力に重きを置いて選考します。文武両道でなくては駄目というメッセージです。

スポーツをする本来の目的、原点に戻る

我が国では、幼少期から野球、サッカーというように特定のスポーツを選択して、それに片寄る傾向が見られますが、欧米では複数のスポーツを体験しています。

せめて、小学校までは、コーディネーション能力を高めるためにいろいろなスポーツを体験することが望ましいと思います。それに、「礼に始まり礼に終わる」という

日本古来の伝統スポーツの美点を取り入れればと思います。そのためには、各スポーツ団体との連携が必要です。他スポーツ団体も礼儀を加味した指導プログラムの構築が大切だと思います。それと、指導者の指導理念の変革が必要です。

今は、余りにも勝負一辺倒です。勝ちさえすれば何をやってもいいという風潮があります。また、過剰な商業主義からの脱却も必要です。スポーツをする本来の目的、原点は何かを見直すことも大切です。本プロジェクトがすべてのスポーツにおいて、スポーツの原点に立ち返る起爆剤になることを望んでいます。

まさに、日本の伝統をないがしろにした「つけ」がまわってきているわけで、並大抵ではありませんが、スポーツ、文化などいろいろなところで種を蒔き、マナーに対して関心を持ってもらうことが大事なことだと思います。「マナーキッズを通じて子どもが変わる、指導者も変わる、学生も変わる、保護者、先生も変わる、コミュニティも変わる」、時間はかかりますが、実行すれば人は必ず変わると確信しています。全国の体育指導委員各位の積極的なご参加を切望します。